

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520378

研究課題名(和文) フランス現代詩研究 総合および分析的見地から

研究課題名(英文) Study of French Contemporary Poetry. Its synthesis and analysis

研究代表者

ディソン アニエス (DISSON, AGNES)

大阪大学・文学研究科・その他

研究者番号：90543489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：今日のフランス詩の包括的な外観図を描き、その主要な内容上および形式上の特徴を捉え、文学における「超現代」という概念を定義することができた。本研究の目的は、超現代詩が逆説的にも古典的な詩をモデルとする(ジャック・ルーボーは日本の中世詩を取り込んでいる)一方で、バイリンガリズム(関口涼子)、映像および写真(S・ドッペルト、A・ポルチュガル)、先端的な科学的知見(細胞生物学、環境学、植物学)などを詩の素材として導入しているという点を強調することにあった。

研究成果の概要(英文)：I have been able to draw an extensive diagram of French poetry today, in order to put in perspective its main traits and formal characteristics, and to reach a possible definition of the elusive notion of "extreme contemporary" in literature. My aim was to stress how much ultra-contemporary poetry paradoxically owes to ancient poetic models and antique texts (i.e Japanese medieval poetry for J. Roubaud), while being open to the contribution of bilingualism (R. Sekiguchi), image and photography (S. Doppelt, A. Portugal), and recent scientific developments (cellular biology, ecology, plant studies) as new poetic material.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：フランス現代詩 超現代 ジャック・ルーボー アンヌ・ポルチュガル 関口涼子 シュザンヌ・ドッペルト

1. 研究開始当初の背景

フランスの近代詩(19世紀のボードレール、20世紀初頭のシュールレアリストなど)は、歴史的に、外国の詩人、とりわけ日本の詩人に大きな影響を与えてきたが、20世紀の後半以降、フランス詩が難解になったとの誤解により、その影響力は衰退した。日本では、今日のフランス詩に関して断片的で不完全な偏見が一般化している。日本において、今日のフランス詩人の何人か(デュパン、ドゥギー、ルーボー、アルビアック)は、雑誌やアンソロジーに翻訳が載ることもあるが、詩集が単行本として刊行されているのは三人にとどまる(ボヌフォワ、デュ・ブーシェ、ポルチュガル)。よって、日本の一般読者あるいは研究者の知識はきわめて限られており、日本の学術研究の対象も、現在のきわめて豊かな詩作の状況をもはや反映していない前時代のモデルにとどまっている。

難解とされる現代詩だが、逆説的にも、1980年代以降、きわめて生産的で、活況を呈している。ヨーロッパやアメリカ合衆国では翻訳が相次ぎ、新進の出版社(POL, Argol, Le Bleu du Ciel)、詩専門の雑誌(CCP, Fusées, Faire Partなど)、インターネット上の編集者(Sitaudis, Remue-netなど)の関心をかき立て、新たに学術研究の対象ともみなされてきている。著名な大学教員が、「超現代」詩の領域を開拓し(Dominique Viart, *La littérature française au présent: héritage, modernité, mutations*, 2005, Dominique Rabaté, *Gestes lyriques*, 2013)、いまや大学の授業にも取り入れられている。また、多数の詩人がみずから理論書を出版している(Roubaud, *Poésie, etcetera: ménage*, 1995, Hocquard, *Tout le monde se ressemble*, 1995, Prigent, *Salut les Anciens, Salut les Modernes*, 2000)。

2. 研究の目的

次の二つの主要な目的に基づいて研究を遂行した。

1. 今日のフランス詩の歴史的な文脈、系譜、技法的・形式的手続きを精緻に分析し、その最近の展開(1950年代から2010年代に至るまで)を、適切な秩序(影響関係、継承関係、共通点および差異)に基づいて構成すること。

2. 上記の見取り図に即して、文学における「超現代」の学術的定義を行うこと(この概念は今日しばしば使用され引用されているが、まだ曖昧で、明確な理論化を経していない)。

3. 研究の方法

私の最近20年間の研究は、現代詩のたえず進展する状況に対して、効果的かつ広く応用可能な分析の手段を明確にすることを目的としていた。そうすることによって、伝統的な文学研究が提示してきた画一的で時代遅れともいえる印象を一掃し、フランス現代

詩に対する正確で正当な展望を形成しようとしたのだ。具体的な作業は以下の通り。

1. 20世紀末から21世紀初頭における詩人たちの系譜を確立すること。すなわち、今日存命の詩人たちを、世代ごとにリストアップし、彼らをそのイデオロギー、技法、形式によって再編し、相互の影響関係(直接・間接を区別)、師弟関係(直接・間接を区別)、差異および対立関係を明らかにする。こうして、今日まだまだ変動の途中にあり、しばしば難解と評される現代詩の、主要な流れを明確にすることができる。

2. 詩に関する理論的研究文献において用いられる重要概念、および現代詩人が頻用する隠喩(速度、機械、装置、循環、凝縮、多声性、など)を包括的にリストアップし、体系的に分析すること。

3. 現代を代表するさまざまな詩人たちと、インタビューや書簡を通じて実際に対話し、積極的に日本に招聘すること。これによって、彼らの創作の進展について質問し、多様なさまざまな手掛かりを与えてくれる回答を得ることができる。

4. 研究成果

大きな研究成果が得られた。

今日のフランス詩のさまざまな潮流、運動、分派活動についての明確なパノラマを作成し、相互の類似性や差異に基づいてそれらを分類することができた(音声詩/形式詩、「白い」詩/「黒い」詩、伝統への回帰/拒否、韻文への回帰/細分化された散文、など)。これにより、混沌としていて解明が困難であった現代詩の状況に明確な展望を(微妙なニュアンスや対立を無視することなしに)与えることができた。

各詩人および集団のこうした理論上あるいは手法上の対立の一方で、さまざまな本質的な共通点も明らかになった。たとえば、①コラーージュ、カットアップ、パラタクス(並列)の体系的使用を通じた、「速度」「運動」「加速」という概念への注目。②ジャンルや領域の混交。③視点の多様性、声の重層性。④アイロニー、新たな詩的手法としての紋切り型、ステレオタイプの導入。⑤非人称的な語り手を介した(jeが使われなくなり、onあるいはnousが使用される)、叙情性の新たな喚起手段。⑥韻を亡霊のようにして反復使用。⑦映像の拒絶(ランボー、シュールレアリストの遺産)、統辞法の尊重。

それぞれの世代を代表する次の三人の詩人が、とりわけ上記の分析に貢献した。①ジャック・ルーボー(80歳:伝統の尊重、ソネットや短歌など伝統的形式の革新)。②アンヌ・ポルチュガル(60歳:新たな統辞法の妙技、古典絵画への言及)。③関口涼子(40歳:バイリンガリズム、現代芸術・古代ペルシャ詩・18世紀百科全書派との関連)。ほかに、ピエール・アルフェリ(映画からの影響)、シュザンヌ・ドッペルト(写真、ソ

クラテス以前の哲学者たちの自然学的断章への言及)も挙げられる。

こうして、「超現代」を以下のように定義するに至った。すなわち、逆説的ではあるが、古典的形式をさまざまに変容させて利用すること、古代趣味をつねに活性化しながら利用すること、である。以上は、すでにベンヤミンに続いて、ジョルジョ・アガンベン(『同時代性とは何か?』2008年)が行った考察と軌を一にしている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

- 1) Agnès Disson, « Jacques Roubaud, compositeur de mathématique et de poésie », dir. Agnès Disson & Véronique Montémont, Editions Absalon, 438 p., 2011, referee reading.
- 2) Agnès Disson, Colloque International, Ecole Pratique des Hautes Etudes / Sorbonne Nouvelle, « L'héritage greco-latin dans la littérature contemporaine », fev. 2011, Communication : Jacques Roubaud : la Grèce aller-retour.
- 3) Agnès Disson, CCP n° 21, Cahier critique de Poésie, CIPM Marseille, Anne Portugal : La formule flirt, p.94-97, 2011, referee reading.
- 4) Agnès Disson, Congrès de la Société Japonaise de Langue et Littérature françaises, Université Hitotsubashi, Tokyo, mai 2011, Table ronde : « Aperçus de la flore contemporaine », Communication : La poésie contemporaine et la vie silencieuse du végétal.
- 5) Agnès Disson, Symposium de la Société Japonaise de Linguistique Française, Atomi Gakuen, Université Joshi, Tokyo, juillet 2011, Communication : Jacques Roubaud, poète et prosateur.
- 6) Agnès Disson, « D'après le Japon », dir. Laurent Zimmerman, Editions Cécile Defaut, Jacques Roubaud : Kamo no Chômei, Saigyô, Shinkei et quelques autres, p.135-159, 2012, referee reading.
- 7) Agnès Disson, 20th-21th Century French and Francophone Studies International Colloquium, Long Beach, CA, USA, « Frictions, Crossings, Fusions 2012 », mars 2012, Communication : Devenir plante - Ryoko Sekiguchi, Suzanne Doppelt, Justine Landau.
- 8) Agnès Disson, San Francisco University, USA, Séminaire « Figures de femmes dans la littérature française », avril 2012, Conférence : Anne Portugal : la poésie française au féminin aujourd'hui.
- 9) Agnès Disson, Bulletin d'Etudes de Linguistique Française n°46, Tokyo, Jacques Roubaud, poète et prosateur : jeux de langage et création lexicale, p. 26-30, 2012, referee reading.
- 10) Agnès Disson, CCP n° 24, Cahier critique de

Poésie, CIPM Marseille, Ryoko Sekiguchi, trois essais : Dix quartiers de Shinjuku, petit guide à usage personnel et nostalgique, Ecrire double, Ce n'est pas un hasard, p.112-116, 2012, referee reading.

- 11) Agnès Disson, CCP n° 25, Cahier critique de Poésie, CIPM Marseille, Ryoko Sekiguchi : L'astringent et Manger Fantôme, p.111-115, 2013, referee reading.
- 12) Agnès Disson, Colloque international « La réception du Japon en France après 1945 », Maison Franco-Japonaise de Tokyo, sept 2013, Communication : Jacques Roubaud, Tokyo infra-ordinaire : transferts et transports.
- 13) Agnès Disson, Université Mc Gill, Montreal, Canada, sept. 2013, Conférence : Le cinéma autrement : les cinépoèmes de Pierre Alferi.
- 14) Agnès Disson, Colloque international « Les possibles de la création contemporaine », Université Laval, Quebec City, Canada, sept. 2013, Communication : Ecocritique et poésie contemporaine.
- 15) Agnès Disson, CCP no 26, Cahier critique de Poésie, CIPM Marseille, Anne Portugal : Pour un comité de salut public, p. 241-245, 2013, referee reading.
- 16) Agnès Disson, New York University, CUNY, Columbia University, USA, "Money/L'argent", 20th/21st Century French and Francophone Studies International Colloquium, mars 2014, Communication : Ryoko Sekiguchi : spéculations fantômes.
- 17) Agnès Disson, Bard College, NY, USA, Séminaire « Quotidien et littérature », mars 2014, Conférence : Jacques Roubaud : le quotidien dans Tokyo infra-ordinaire.

[雑誌論文] (計6件)

[学会発表] (計10件)

[図書] (計1件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計0件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ディソン、アニエス (DISSON, Agnès)
大阪大学・大学院文学研究科・外国人教師
研究者番号：90543489

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：